



学薬のひろば



Vol. 002

6月は三重での東海ブロック会議、札幌での健康・学校環境衛生講習会と大きな催しが2つありました。それぞれ参加いただいた先生方には下記報告にもあるようによい刺激となり、県学薬でさらにリーダーシップを取っていただけたらと思っています。又、7/5の支部長会においては愛知県教育委員会健康学習課大高先生より環境衛生検査を進める上での貴重な指導助言をいただくとともに各支部長・県立高校担当者と活発な質疑応答の時間を持っていただけたことは、今後各支部において実際に検査・指導を行って行く上でとても参考になったと思われます。県学薬としましても今後こうした場をもっと多く提供でき、会員の先生方の活動をサポートすることができたらと考えております。

<東海ブロック会議報告>

学校薬剤師部会 亀谷みどり

日 本学校薬剤師会東海ブロック会議が、平成15年6月14日に鳥羽市にて開かれました。杉下日本学校薬剤師会会長が初めて同会議に出席して下さり、これからの日学薬について熱く語っていただきました。

報告事項では、本年10月26日に名古屋で開かれる「薬剤師のための薬物乱用防止研修会」の原案も紹介されるとともに、日学薬IT委員会委員長、木全先生よりホームページ利用の説明がありました。県ごとの活動報告では愛知学薬で作成したシックハウス・プール水のカラー冊子には感嘆の声があがり、他県からの質問にも情報委員会より分かり易い説明がなされました。

討議事項の一つは、平成16年に文部科学大臣特別表彰があり全国で150人ほどを予定しているが費用もかかるので各県の意見を伺いたいとのものでした。愛知県学薬会長、大橋先生から、愛知としては長年、学薬活動に御尽力いただいた先生方への表彰ですから相応分を捻出するのも辞さないと言言があり、岐阜、静岡、三重の3県の会長さんも同様な意見でした。そして、閉会。

私はこの度、学薬部会新部員となり、初めて参加させていただきました。各地区の学薬活動が基点ではありませんが、その上に県学薬がありさらにその上に日学薬がある、各地区の学薬活動を県学薬が支え、県学薬を日学薬が支えている、そういったことを実感できた会議でした。参加理事の先生方は、回を重ねてみえ、友好的でなごやかな雰囲気ではありましたが、どの県の会長さんも、譲れないものは譲れないといった、毅然としたところがありました。そんな中、大橋会長さんは終始、理性を保ち紳士的な物腰でしたので安心して見ていられました。たとえば、愛知選出の日学薬副会長、築城先生と他県の理事さんとのやりとりは机をたたかばかりの迫力で、でもそれは、築城先生が愛知学薬のため、日学薬のため、力を入れて下さっている現れだと納得しましたこともお伝えしておきます。最後に愛知の参加理事先生は、どの理事も存在感があり、愛知学薬の層の厚さを他県も感じとったのではないかと思われた一日でした(身内びいきか)。

<健康・学校環境衛生講習会に参加して>

学校薬剤師部会 山口一丸

学 校薬剤師の皆様、今こそ教育の現場へ参加するときです。

過日、まだ肌寒い風の吹く札幌で日本学校薬剤師会主催の第1回「健康・学校環境衛生講習会」が開催され全国から500名程の参加がありました。講習会の内容は「薬物乱用防止教育」「未成年者の喫煙・飲酒の問題」「ホルムアルデヒドや揮発性有機化合物をめぐる学校施設設備の問題」などで、まさに学校教育の現場において旬と言える内容でした。



札幌コンベンションホール正面にて

「薬物乱用防止教育」についてですが、皆様はなんとなく他人事と考えていませんか？ 現在、第3次覚せい剤乱用期と言われていられるのをご存知でしょうか？ その中で最大の問題点は低年齢化です。皆様のお子さんや孫が小・中学生のうちから薬物の誘惑にさらされるかもしれないのです。これからは今まで行われてきた<脅しの教育>ではなく小学校高学年の頃から薬物に対する正しい知識の習得、そして誘惑からの対処スキルの習得が必要となり

ましよう。薬物の専門家である薬剤師が活躍する時ではないでしょうか。

次に「未成年者の喫煙・飲酒の問題」ですが、愛知県薬剤師会は昨年より禁煙宣言をし、現在様々な活動をしているところですが学校という教育の場でも校内（敷地内）禁煙の動きが加速しております。

タバコはもちろん自分の健康を害する恐れのあるものですが、それ以上に子供達の受動喫煙による弊害等が問題であり、教育に携わるものとしては当然のことでしょうし、これからの社会が求める命題の1つだとも思われます。さらに、喫煙・飲酒はゲートウェイドラッグ（入門薬物）と言われ薬物乱用につながるものでもあることから、是非この問題に積極的に取り組んでいただけたらと思います。

最後に「ホルムアルデヒドや揮発性有機化合物をめぐる学校施設設備の問題」ですが、私達が毎日20k gも口にしているもの... それは空気です。ちなみに食物や水は各2k gですからこれほど多く体内に取り入れる空気が汚れていたら大変ですね。シックハウス・シックスクールの問題は1996年頃から言われ始めましたがこうした問題も教育環境を守る学校薬剤師としては見逃すわけにはいきません。今後、部材・建材といった建築資材が見直されたり環境基準値の強化が行われますが今のところ対策としては換気が最良です。とても基本的なことですが、学校に対してしっかりとアドバイスしたいものです。

学習指導要領の改訂により、総合的な学習の時間にも健康・福祉について例示されている点をふまえると、学校教育の現場において薬剤師が活躍できる場が今後ますます増えてきそうです。頑張りましょう。



札幌会場内の喫煙ルーム(エスカレーター下)